

# 有朋

「有朋自遠方来」



有朋会会報第 42 号  
令和 5 年 7 月 1 日



## 有朋会135年の歴史と伝統は、 今も彩り豊かに輝いています。

有朋会会長 山田直行

佐賀平野は、爽やかな新緑の季節から黄金色の麦畑が波打つ季節となりました。有朋会会員の皆様には、ますますご清祥のことと思います。

さて、母校佐賀大学は、去る4月4日、佐賀市文化会館で入学式を行いました。学部生1358名、大学院生309名、計1667名の学生が入学しました。兒玉浩明学長からは「急激なデジタル化やグローバル化の中で、将来の目標を持ち、小さな達成感を積み重ねて学業に励んでください。」と激励の言葉がありました。また、午後の本庄キャンパスは、久しぶりに学生の活気で溢れていました。

表題の通り、有朋会は今年で135年の節目を迎えました。これまで3年余り続いたコロナ禍の中で、いくつかの活動が自粛や縮小を余儀なくされました。それでも「今できる工夫を！」を合言葉に活動しました。その中の企画の一つが「有朋会135年記念誌」の作成です。全国からあつという間に150余名の寄稿原稿と祝辞が寄せられ、有朋会へのロイヤルティの高さと絆の強さを実感しました。

今回の135年記念誌「続・創造と継承」は、前回の130

年記念誌（平成30年12月20日刊行）の続編としての発刊です。有朋会副会長山口久美子先生を編集委員長として、足掛け2年、11回の編集会議と5回の正副会長会を経て完成、上梓されました。内容は、7編からなる構成で、会員の方々の想いや活動記録を文章や写真で収録しています。

記念誌全体に流れるコンセプトは「あしたへ<sup>つな</sup>絆ぐ」です。それぞれのページには一人ひとりの豊かで多彩な知見が詰まっています。それは明日へとつなぎ渡してゆく「バトン」のようなものです。その彩り豊かな「心のバトン」を<sup>つな</sup>絆いで、母校の益々の発展と、教育及び社会、文化の振興発展に貢献できますようにご協力いただければ幸いです。

論語学而第一の1節「学びて時にこれを<sup>なら</sup>習う、<sup>また</sup>亦、<sup>よろこ</sup>悦ばしからずや」は、今日の「リカレント教育」や「リスキリング」などの学び直しに通じ、「朋有り、遠方より来る、亦た楽しからずや」は、歴史と伝統ある有朋会の明るい未来へとつながっています。



### ふるさとスケッチ

立春から春分の間に吹く強い南よりの風を「春一番」という。まだ余寒が残る日、小城市の三岳寺を訪れた。境内にはろう梅が馥郁とした香気を放って咲いている。

この寺の歴史は古い。鎌倉時代の千葉氏の援助で臨済宗に転じ、関ヶ原の戦い（1600年）の後、鍋島藩を救った徳川家康の側近であった三葉元信禅師によって再興され今日に至っているという。奥の古いお堂には薬師如来像（鎌倉時代）が安置され、そのどっしりとした力強い写実の造形美に圧倒される。おそらく、慶派の流れをくむ仏師の作であろう。思わず手を合わせ礼拝する。

—春寒や 古 偲ぶ三岳寺—



三岳寺早春（小城市小城市町）

# 会員の皆様より



## 現在の進路でのやりがいと苦労

R4年卒 河野 真輝

私は教育学部を卒業後、福岡大学法科大学院に進学し、日々各法律（主に、民法や刑法、憲法）の条文や裁判事例を読み込む日々を送っています。現在の進路を選択したきっかけは、学部の授業時に学校の部活動内での指導死の事例について取り扱い裁判資料に目を通したり、ご遺族の講話をお聞きしたりする中で法律の見方・考え方に関心を抱くようになったからです。その後、卒業論文を執筆したり、法哲学を専門とされているゼミの先生に普段からの疑問点をお話ししたりする中で、広く法律全体について学習をしたい、法曹実務家として上と同じような事例の適切な解決はどのようなものかということについて考えていきたいと思いました。

日々の学びの中で、各法律の条文に込められた立法者の思いや、裁判官がどのような発想のもとにこの判決文を書いたのか、などということを考え、日本の法制度について少しずつではありますが理解を深めていけることにとてもやりがいを感じています。また、裁判例の中には後の立法の基礎になるなどの

意義を有するものもあり、事実を読む中でこれまでに知らなかった社会のことに気づき、それについて考えるなど、日々の学びが広く社会に目を向け自らの見識を深めていく機会になっていると思います。

一方で法科大学院における成績評価が極めて厳格であるため、科目の合格の要件を満たさなければ追加レポートなどによる措置なしに不合格の判定が出てしまうということが十分にあり得るという難しさもあります。

その職責がどれほど重いものかということ念頭に置いた上で日々の学びに取り組み、事件の適切な落とし所を探ることのできる法曹を目指していきます。



## 「未来はつづくよ、どこまでも」

S63年卒 江北支部 川野 仁 司

これは、江北町町制70周年記念ポスターに綴られた言葉です。まっすぐ伸びるJR佐世保線の線路の先に未来が見えてくるようです。新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ情勢など、この先の未来が霞んで見えないような中に、ふと明るさを感じさせてくれました。

江北町立の小中学校もこれから義務教育学校へと形を変え、9年間を通した学びの場となっていく計画です。

江北町の未来も、江北町の小中学校の未来も、ここに生きる子ども達のために輝きながら続いていくことと思います。





## 「豊かなスポーツライフに向けて」

R4院卒 鳥栖・基山支部

私は佐賀大学に入学して、新しいスポーツに出会いました。それは“アイスホッケー”です。

出合いのきっかけは、その頃アイスホッケー部に所属していたマネージャーの先輩でした。マネージャーは選手のサポートを行い、選手を支えるという立場ですが、これまでの私は、スポーツをする立場でしかなく、何か物足りない気がしました。しかし、なんとなく始めてみた私は、段々とマネジメントのやりがいを感じるようになり、アイスホッケーに没頭していきました。ただ練習や試合の準備をするだけでなく、選手に負けたくないくらいの熱量で、勝つために必要なことにできる限り関与していきました。

ですが、ベンチで選手を眺めるだけでは物足りない、やはりどこかで自分自身が動きたいという気持ちがあ

中尾 美 鈴



り、2018年には女子のアイスホッケー部を設立しました。私のように大学に来てからアイスホッケーに出会い、自分もやってみたいという女子学生を集め、練習をしたり、大会に出場したりしました。現在も部は存続しており、先日は全国大会にも出場したということで、大変嬉しく思っています。

スポーツは「する」だけでなく、「みる」「支える」「知る」といった多様な関わり方があり、そのような多様な関わり方が人生を豊かにするのだと実感しました。この経験を活かし、学校現場において、子どもたちにも伝えていけるよう努めていきます。



## 学校を取り巻く世界

R4年卒

「教育を外の世界から見てみたい」—。私はそんな思いから大学卒業後、教員にはならず、地元である鹿児島県の新聞記者の道に進みました。現在は鹿児島市の担当として、教育だけでなく議会やイベントなどに足を運び、現場に行くことでしか分からない現状を文章で伝えています。社会人1年目、慣れない仕事に苦戦する日々が続いていますが、取材でさまざまな人と出会い、刺激をもらっています。



出 水 柊



学校への取材では、デジタル化に向けた取り組みがスピーディーに進んでいると感じています。「GIGAスクール構想」によって児童生徒にタブレットを一人一台配布はもちろん、コロナ禍での遠隔授業や電子教材など、児童生徒だけでなく教員を取り巻く環境も変化しており、各取材で現場の最前線を見ることができるのは、記者冥利に尽きると思っています。

記者を始めてから強く感じるのは、全ての事象は相互に作用しているということです。教育一つとっても直接指導する教員、学校を統括する教育委員会、委員会に予算を充てる議会。学校現場にいると見えづらいですが、多くの人が子どもたちの豊かな学びを支えていることが分かってきました。いじめやハラスメントなど、多様化している教育問題の解決に寄与できるように、今後も現場の今を報道していきたいと思います。



## 「私とテニス」

私は24歳から趣味でテニスを始めた。それは肥満防止のため、これといった趣味がなかったためである。まずはテニス教室に2年ほど通い、初心者対象の試合に出場するようになった。たくさんの方からご指導をいただきながら、シングルの大会に出場し、1対1の真剣勝負にのめり込んでいった。自分の中で、「勝っても負けても自分のせい」と言い聞かせ、練習を続け徐々に試合で勝つことができるようになった。35歳以上の部ではお陰様で九州で優勝することもできた。練習を続けることで20代の時は到底勝てなかった選手にも40代になると勝てるようになってきた。早いもので、今年からは55歳以上のベテランの部に参戦することになる。

これまで、テニスを通して同じ教職員の先輩や後輩、自分と異なる職業の方と出会い、たくさんの知り合いや友達ができ、テニスの話ばかりでなく仕

H4年卒 神埼支部 遠藤 浩幸

事の話や冗談が言える友達もたくさんできた。そして、全国各地のテニスの試合に出場して、九州や全国に友達、そしてよきライバルができた。

今後も家族などの協力を得て真剣勝負のテニスを続けていきたいと考えている。全国の中では90歳位までシングルの戦いを楽しんでおられる方がいる。まだまだ先は長いが、体力の続く限り挑戦していきたい。まだ見ぬ全日本チャンピオンという新しい景色を夢見て。



## 高田保馬博士の生誕地に赴任して

S62年卒 小城・多久支部 藤瀬 秀隆

三日月町は、経済学、社会学の発展に輝かしい功績を残された高田保馬博士の生誕地である。毎年2月に功績をたたえる会が開催されており、今年は3年ぶりの開催となった。当日は町内の児童・生徒が「博士の勤勉さ・気骨を受け継ぎ将来の夢を実現したい」との熱い思いを発表し、大会を盛り上げてくれた。博士は、歌人としても名高く、県内11校の校歌を作詞されている。私は今回、三日月中に校長として赴任する機会を頂き、再び、保馬博士が作詞した校歌を生徒とともに歌える喜びを日々感じている。「若竹・強健・知識・正義」は校歌の歌詞にある言葉だが、博士の生き様が映し出されている。私が最も好きな保馬博士の和歌は、「小さきは小さきままに花さきぬ 野辺の小草の安けさを見よ」（三日月小玄関横の歌碑にも刻まれている）である。毎

月1回実施している全校朝会（校長講話）では、年間1回ではあるが、保馬博士の功績を話題にするようにしている。校長として、三日月町の子ども達が保馬博士のように勉強や文学を愛し、自分の夢を実現していこうとする熱い志が育まれるように、日々の教育活動に邁進していきたい。





## 創造的な仕事を追い求め、繋がりに感謝

S46年卒 佐賀市西部支部

卒業、結婚、同時スタート。神奈川県茅ヶ崎市教員として西浜小学校赴任。時間を忘れて授業研究。熱っぽく語り合い、刺激しあった。東京の著名な先生の自宅へ誘って頂き、教材研究を惜しまない熱心な先生方と有意義な時を過ごした。佐賀大学で斎藤喜博先生の集中講義を受け、教師の創造的な仕事に深く感銘し、教授学研究会の実践に学び、心豊かな美しい命輝く子どもの姿を追い求めた。

そんな環境の中で、自分自身も徐々に心と体を開いていったように思う。社会的相互作用を伴う活動が土台となって、退職後も好奇心からチャレンジしたすべてのことがエネルギーとなって私の今を支えている。田中一利先生の指導を受けている油絵（日洋会会員）、劇団佐賀パーフェクトシアターの団員、藤間流日舞・文化連盟の会員、趣味の栽培等。多様な活動の中で交友関係も広がり、喜びも多く、支え



堤 侑 子

られていることを実感している。

庭の木々、草花を眺め、鳥のさえずりに耳を傾け、朝のスタート。仏壇でお経を唱え、朝食。後期高齢者となった今も平日は毎日出勤。スケジュール満杯で睡眠以外はパワー全開。夕食も手抜きはせず、収穫の喜びも味わっている。長男夫婦と我が家での会食。東京在住の次男家族とのラインでの近況報告。孫達の成長、教え子達との交流も楽しみである。繋がりに感謝しながら健康な日々を送りたい。



## 山に向かって歩く

S50年卒 福岡支部

私は毎日午後4時頃に散歩をしている。台風や大雨以外は傘をさしても実行している。コースは、自宅から糸島東部地区カントリーエレベーターまでで固定している。自宅を出て筑肥線を越え、バイパスを抜ける。一面田園である。目の前には井原山がそびえ、右手は雷山、左手には高祖山と眺めは抜群。また、一直線の農道を歩くので危なくはなく、最高の散歩道である。

帰路は、井原山を背にし右手に高祖山、左手には糸島富士と呼ばれる可也山を見ながら歩く。この時期、幻灯のような景色である。

1時間10分、8000歩の歩行である。その時、厳守していることがある。

以前、偉い整骨院の先生が言われた「よい姿勢で、まっすぐ歩かないと、体によくありませんよ。」と



鶴 久 生

いう教えである。私は極端に蟹股なので、一步一步足が内側を向くように力を込め、胸をピンと張って、まっすぐ前を見て歩いているのである。





## サウナは私の生活必需品

R3年卒 鹿島・嬉野・藤津支部 園 田 佳 憲

初任校の能古見小学校に配属され、早2年が経ちました。子どもたちとの関わりの中で驚きや新しい発見を楽しむ毎日です。新しいことの連続で目まぐるしい日々ですが、生活の中に変わらない存在も必要です。楽しい毎日とは言いながらも、疲れは溜まっていき、家に帰って夕飯を済ませると気づいたら朝、ということも多々あります。そんな疲れをふっとばし私の元気の源にもなっている存在、それが「サウナ」です。

前々から温泉施設にはよく行っていましたが、なかなか踏み入ることのできない場所でした。友人からの誘いを受け、何気なく入ってみたのが始まりでした。今では、毎週のようにサウナに通い詰め、癒し（ととのい）を求める生活となっています。金曜日には、学校から直接、サウナ界では西の聖地（熊本県）と呼ばれる施設まで足を運ぶこともあります。

今となっては休日だけでは物足りず、国語の単元で「好きな時間」について紹介する例文もサウナ、算数の計算問題でも「37」の数字を見つけないと思ひ入れが湧くほどに大きな存在となりました。

まだ行ったことのないサウナやこれから生まれるサウナもたくさんあります。これからもいろいろなサウナとの出会いを大切にしていきたいと思ひます。元気の源であるサウナで疲れを癒し、学校で子どもたちと一緒に学んでいく毎日をととても楽しく感じ、頑張っていきたいと思ひます。



## 「退職を迎えて」

S60年卒 伊万里・西松浦支部 長 谷 川 晃 三 郎

最後の1年と思うと、月日の流れがとても速く感じられる。これまでの教職の中で、子どもたちにしっかりと力をつけることができているのか反省する毎日である。

私が子どもの頃、よく言われていた言葉に「人様だけには迷惑をかけるな。」「お天道様はいつも見とらす。」「目上の人を大切に。礼節を尽くせ。」等がある。しかし、今「人様」「お天道様」「礼節」といった言葉はほとんど聞かなくなった。「人様」は「自分様」に変わり、自分だけがよければよいという自己中心の社会に変わってしまったような気がする。こんな社会だからこそ、学校教育だけはぶれたらいけない。そういう気持ちで「周りの人を大切にする」ことを教えてきたつもりである。

命の教育で知られる東井義雄先生の言葉に「根た

くましなければ、自ずから育つ」というものがある。人間の根は何だろうと考えた時に、私は「思いやりの心」や「礼儀正しさ」ではないかと思ひます。

人は一人では生きていけない。周りの人に支えられ助けられて生きている。そのことを子どものころから理解し、周りの人たちを大切にして成長して行ってほしいという思ひで、返事や挨拶、感謝の言葉など周りの人を大切にする具体的な行動を身につけさせることを目標にこれまで取り組んできた。

私が取り組んだことで、子どもたちの根っこを少しでも太くすることができたのだろうか、他にもっと良い方法はなかったのか、考え出すときりがなくなる。根っこは見えない。これからの教え子たちの生き方を、社会人としての活躍を見届けたいと切に願ひ今日この頃である。



# 支部便り

## 福岡支部

福岡支部の3名の故人への黙禱ののち、4年ぶりの総会・懇親会を行いました。今年は30名の方に案内状を出し、S21～S54年卒の13名の方から会費納入を受け、欠席者からも「佐賀師範での学生時代が懐かしゅうございます。」「85歳になってからバイエルを始めました。」「介護と病院通いが日課です。」「75歳まで勤めます。」等のメッセージを受けました。懇親会では、『有朋の色紙』をA4封筒に入るように小型化したり、『著作権の許諾』を得たりする本部の創意工夫を伺いました。また、これまでの64カ国を巡った旅行などのアルバムを持参していただき、「今年は北海道旅行を計画している。」「福岡に在住しながら、佐賀女子短大の講師をしている。」「佐賀大の教授がテレビに出演していた。」etc.の話で盛り上がりました。おいしい佐賀の酒をいただきながら鴨鍋を完食しているうちに、来賓の帰りの列車の予定時刻はとっくに過ぎていました。最後に135年記念誌のおかげでまだお会いしたことのない方との交流が深まったことにお礼を申し上げます。（福岡支部長 末松 英雄）



懇親会の様子

## 武雄支部

武雄支部は、武雄市立の武雄中校区、北方中校区、山内中校区、川登中校区、武雄北中校区の小学校11校、中学校5校で構成され、現職会員80余名と退職会員で構成されております。

武雄市は、令和4年9月に新幹線が開通し、多くのイベントでにぎわいました。小学校では、感染対策をとりながら、新幹線を利用して長崎への修学旅行を行い、これまでとは違った学校行事となりました。

しかしながら、令和4年度もコロナ禍のため、本部行事への参加のみで武雄支部の活動が一切できませんでした。隣の学校の会員でさえ直接集まっていた交流ができず、苦しく、悔しい思いをしました。

今後、感染に係る対応が変わり、学校の状況もこれまでとは違ったものになると考えます。一日でも早く会員との「繋がり」を再開し、会員の皆様とともに語りあえることを願っています。

（武雄支部長 下田 正弘）



九州新幹線長崎ルート武雄温泉駅

## 佐賀市北部支部

佐賀市北部支部は、金泉中校区、大和中校区、松梅中校区、富士中校区、北山中校区、三瀬中校区の小学校10校、中学校6校と東部教育事務所、佐賀市教育委員会で構成されており、佐賀平野の特徴であるクリークが縦横に走る平野部と緑豊かな山間部に位置しています。平野部には、縄文時代の集落跡や貝塚がある東名遺跡や奈良・平安時代に肥前国の中心であった肥前国庁跡など歴史や文化を想像できる遺跡が多数点在し、山間部には21世紀県民の森北山湖一帯などに大自然のワンダーランドが広がるという大変魅力あふれるエリアです。

2022年度の教育は、小学校の新学習指導要領実施3年目、中学校は実施2年目となり、変化の激しい社会を生き抜く力の育成がさらに求められました。タブレット端末を活用した個別最適な学びを実現させるための「GIGAスクール構想」も2年目となり、各学校で取り組みが進んでいるところです。

新型コロナウイルスの感染状況のために、令和2年度から様々な行事に制約をかけざるをえない中で、今年度は春日小学校がお世話をさせていただくことになり、会員名簿の点検、会費集金等の業務を進めてまいりました。

令和4年度末からようやく世の中のマスク着用が個人判断となり、油断はできませんが、徐々にコロナ前の生活が戻りつつあります。人と人が安心して関わりを持ち、支部の活動が再開され、会員の皆様が元気で活躍されることを心より祈念いたします。

（佐賀市北部支部長 青柳 博文）

# 本部から

## 有朋会 135年記念誌 完成！

—7月からお手元へ—

たくさんのご支援・ご協力  
誠にありがとうございました。



現役の若手から、100歳を超える大先輩まで150余名の皆様からのお声や写真を掲載させていただきました。県内に限らず遠くは、関東・関西支部、福岡支部などからも多数の寄稿をありがとうございました。

頁をめくりながら、「この時自分は何をしていたのかな」と、遠き日の己の姿を彷彿とさせられる玉稿や写真の数々。どれもみな、懐かしさあふれるものばかり。

遠き日のノスタルジーとともに、若き日のあの燃える思いがこれからのさらなる歩みの支えとなってくれることを願ってやみません。

ぜひ、ご高覧ください！

※R5.3.24 本年度の教育学部卒業生へ佐賀大学の歴史や出来事を中心に綴った「有朋会 130年記念誌」と基峰先生揮毫による「有朋」の色紙をお祝いに！  
※R5.4.4 本年度教育学部入学生へ先輩たちが過ごした学生生活の一端が垣間見える「有朋会 135年記念誌」をお祝いの心を込めて、全員に配布をさせていただきました。

### 《令和5年度 有朋会支部長の皆様のご紹介》

※お問い合わせやお知らせがあれば支部長さんまでご連絡ください。

支部名	支部長名	連絡先	電話番号
福岡支部	鶴 久生	福岡県糸島市高田5-22-13-105	092-324-6645
県庁支部	榎 俊二	佐賀県教育庁学校教育課内	0952-25-7395
鳥栖・基山支部	末安 殉治	基山町立若基小学校内	0942-92-0410
三養基支部	庄嶋 美奈子	上峰町立上峰小学校内	0952-52-3835
神埼支部	城戸 幸一	吉野ヶ里町立東脊振小学校内	0952-52-2370
佐賀市東部支部	石田 亮子	佐賀市立諸富北小学校内	0952-47-2834
佐賀市西部支部	宮原 孝子	佐賀市立開成小学校内	0952-33-2975
佐賀市北部支部	吉田 まりか	佐賀市立川上小学校内	0952-62-2137
小城・多久支部	大島 和子	多久市立東原庫舎西溪校内	0952-75-2826
唐津支部	丹野 到	唐津市立浜玉中学校内	0955-56-6650
伊万里・西松浦支部	松本 繁	伊万里市立伊万里小学校内	0955-23-4128
武雄支部	樋渡 正	武雄市立西川登小学校内	0954-28-2006
江北支部	川野 仁司	江北町立江北小学校内	0952-86-2251
白石支部	貞松 弘人	白石町立白石中学校内	0952-84-2411
鹿島・嬉野・藤津支部	小川 康夫	鹿島市立浜小学校内	0954-62-2444
県立・私立支部	竹田 敬道	佐賀県立うれしの特別支援学校内	0954-66-4911
関西支部	猿渡 千歳	大阪市旭区太子橋3-4-3	06-6953-9014



令和5年度

# 135年記念「有朋の集い（総会）」のご案内

期日：令和5年10月7日（土） 14：00～18：00（受付13：00）

会場：佐嘉神社記念館

内容：第Ⅰ部 有朋会 総会（14：00～14：30）

第Ⅱ部 講演 演題「下村湖人と葉隠」（14：40～15：30）

講師 下村湖人生家 館長 島 英 彰 氏

第Ⅲ部 懇親会（15：45～17：45）

◆コロナ禍でできなかった懇親会も3年ぶりに行います。お待ちしております。

※担当実行委員は、平成2年3月卒業生（学籍番号86P）の皆さんです。

※135年記念誌に寄稿して下さった方もぜひ、お越しください。

※懇親会の会費は、¥4,000円です。

※参加申し込みは、会報42号に同封してありますはがきにて**9月1日（金）**までに返送してください。

## 令和4年度「有朋の集い（総会）」報告

\*令和4年10月1日（土）14：00～17：00

\*佐賀大学大講義室

\*内容 第Ⅰ部 総会

第Ⅱ部 記念講演

演題「ここ数年間の記念像制作について」

講師 佐賀大学芸術地域デザイン学部

教授 徳安 和博 氏

第Ⅲ部 アトラクション

演舞「YOSAKOI（よさこい）」

演者 佐賀大学 嵐舞 10名



佐賀城公園にある鍋島直正公の銅像制作過程の写真を見せていただき、制作中の苦労なども詳しく話していただきました。

よさこい総踊り曲「黒田節」「バンザイ」など披露してもらいました。週3回の練習で磨きをかけ、九州各地で活動をされています。



## 令和4年度 追悼会報告



物故者の追悼文を読まれる  
山田直行 会長

参加された遺族の皆様と  
支部長の皆様



\*令和4年11月20日（日）10：00～11：20

\*願正寺

\*令和3年10月1日から令和4年9月30日までに報告がありました物故者125名の会員の方々の追悼法要を執り行いました。新型コロナウイルス禍の中でしたが、毎年行う大切な行事として行いました。

ご遺族様はじめ、本部役員や各支部の支部長様の出席をいただき、厳粛に行うことができました。

（参加者：7遺族、他27名）

## 令和5年度 有朋会本部・支部行事計画

月	日	曜	本 部 行 事	備 考
4	3	月	教職員定期異動による名簿更新	※各支部で会員把握
	4	火	佐賀大学入学式、大学院オリエンテーション	
	5	水	第1回正副会長会（18：00～）	菱の実会館小会議室
	6	木	学部オリエンテーション	
	22	土	第1回本部役員会（15：00～）	菱の実会館多目的室
	24	月	会報42号原稿集約 ※教員採用支援（全体：支援ガイダンス 他）	教育
5	26	水	有朋会支部役員名簿提出締め切り ※教員採用支援（全体：論文の指導 他）	※代議員名簿締切 4月26日 教育
	10	水	※教員採用支援（個別：論文・自己PR）～5月26日	菱の実会館（13日間）
	24	水	第1回編集会議【会報42号】	会報部会
6	27	土	代議員会（15：00～）	菱の実会館多目的室
	1	木	会報発送者名簿確認	※サラトに確認
	7	水	第2回編集会議【会報42号】	会報部会
	19	月	県内現職会員数調査締切（学校→各支部）	※各学校ごとの名簿集約
7	21	水	各部会	
	1	土	令和5年度総会等の案内	会報に掲載
	3	月	物故者の確認依頼	会員調査締切：退職会
8	5	水	会報42号及び135年記念誌発送開始（各会員へ） 第2回正副会長会（18：00～）	※サラトに確認 菱の実会館小会議室
	24	月	※教員採用支援（面接・論文・模擬授業）～7月28日	菱の実会館（5日間）
9	1	火	※教員採用支援（面接・論文・模擬授業）～8月10日	菱の実会館（8日間）
	2	水	第1回学部意見交換会（学部課程代表）（18：00～）	菱の実会館多目的室
10	17	木	※教員採用支援（面接・論文・模擬授業）	菱の実会館（1日間）
	13	水	第3回正副会長会（18：00～）	菱の実会館小会議室
11	29	金	本年度追悼対象者報告第1次締切 会費納入締切	会費納入締切（振込）
	2	月	追悼会案内の発送（御遺族様宛）	本部事務局
	7	土	「有朋の集い（総会）」14：00～18：00	佐嘉神社記念館
	11	水	第4回正副会長会（18：00～） 本年度追悼対象者報告 最終締切	菱の実会館小会議室 本部事務局
	21	土	第2回本部役員会（15：00～）	菱の実会館多目的室
12	28	土	佐大ホームカミングデー（予定）	対象：卒業生の全て
	18	土	願正寺との打合せおよび前日準備	本部事務局
	19	日	追悼会（願正寺）10：00～11：30	参加依頼（各支部3名程度）
	22	水	第3回編集会議【会報43号】	会報部会
1	25	土	佐賀県青春寮歌祭（13：00～）	エスプラッツホール
	6	水	第5回正副会長会（18：00～）	菱の実会館小会議室
2	10	水	第2回学部意見交換会（学部課程就職担当）（18：00～）	菱の実会館多目的室
	7	水	第6回正副会長会（18：00～）	菱の実会館小会議室
3	17	土	代議員会（15：00～）	未納会費の納入締切 菱の実会館多目的室
	22	金	佐賀大学卒業式（10：00～）・祝賀会（12：30～）	教育学部 学校教育学研究科
	29	金	有朋会監査（10：00～）	菱の実会館小会議室

## 令和5年度 有朋会（佐賀大学教育学部・文化教育学部）役員一覧

	役 職	氏 名	卒業年 課 程		役 職	氏 名	卒業年 課 程
1	会 長	山田 直行	S47.美	15	幹事（退職）	岡 陽子	S54.中
2	副 会 長	山口久美子	S41.小	16	〃	砂後 典之	S59.小、H08.院
3	〃	江島きよ子	S52.小	17	幹事（現職）	田中 裕子	S61.小
4	〃	緒方 俊昭	S52.美	18	〃	中村 尚志	H03.小
5	〃	黒木 正孝	S53.小	19	〃	三宅 敏宏	H07.総文
6	〃	梶島陽一郎	S56.中	20	〃	小石 克	H08.総文
7	〃	竹下 敬教	S51.中	21	幹事（本庄小）	牟田 尚敏	S62.小
8	〃	坂本 康晴	S63.中	22	幹事（城西中）	宮島 隆	S62.小
9	幹事（大学）	中村 隆敏	S61.美、H15.院	23	幹事（附属小）	岩崎 稔敦	H04.小
10	〃	徳安 和博	H02.美	24	幹事（附属中）	真子 靖弘	H04.小、H12.院
11	〃	堤 公一	H06.小、H08.院	25	幹事（附属特）	山北 史隆	H07.中、H09.院
12	〃	小松美和子	H10.総文、H13.院	26	監 査	末次 利隆	S51.中
13	〃	林 裕子	H14.学	27	〃	池田 典穂	S60.中
14	〃	鳥谷さやか	H20.美、H22.院	28	事務局長	高松 京子	S55.小
				☆	顧 問	宮尾 正隆	S36.美



## 令和4年度決算報告・令和5年度予算

### 【歳入の部】

費目	令和4年度 執行額	備考	令和5年度 予算額	備考
会費	4,802,000	2,000円×2,401名	5,000,000	2,000円×2,500名
準会員費	924,000	入学時10年会費（教育84名）	1,100,000	入学時10年会費 11,000円×100名
繰越金	1,216,660	令和3年度繰越金	1,235,599	令和4年度繰越金
利息	10,017	利息等、全学同窓会より総会祝儀	10	利息等
合計	<b>6,952,677</b>		<b>7,335,609</b>	

### 【歳出の部】

費目	令和4年度 執行額	備考	令和5年度 予算額	備考	
事業費	総会 追悼会費	371,232	祝詞、総会・祝賀会補助等	700,000	祝詞、総会・祝賀会補助等
	お施餓鬼費	26,650	御仏前＋供花	35,000	御仏前＋供花
	慶弔慰問費	245,000	弔慰金、現金書留含む	300,000	弔慰金、現金書留含む
	会員名簿費	0	各支部名簿作成と配布	50,000	各支部名簿作成と配布
	会報費	395,720	有朋41号発行	400,000	有朋42号発行
	支部助成金	180,000	10,000円×17支部、総会・講演等補助1万	300,000	10,000円×17支部、総会・講演等補助
	渉外費	100,000	会長活動費、渉外活動費	100,000	会長活動費、渉外活動費
	新入会員歓迎費	0	卒業記念品（祝詞）150名分	50,000	卒業記念品（祝詞）150名分
	支援活動費	453,500	就職支援講師謝礼等	500,000	就職支援講師謝礼等
	新規事業	0	135年記念誌編集等	50,000	
小計	<b>1,772,102</b>		<b>2,485,000</b>		
会議費	支部長合同会議費	64,000	支部役員、代議員の招聘促進	140,000	支部役員、代議員の招聘促進
	役員会費	153,817	正副会、本部役員会等	140,000	正副会、本部役員会等
	監査費	10,000	監査費	10,000	監査費
	諸費	67,256	全学地区会、各種祝儀等	300,000	全学地区会、各種祝儀等
	旅費	61,130	全学同窓会旅費と支部総会等旅費	300,000	全学同窓会旅費と支部総会等旅費
	学部事務打合せ費	19,158	8月と1月開催	120,000	8月と1月開催
	小計	<b>375,361</b>		<b>1,010,000</b>	
需用費	備品費	3,400	職員録等	5,000	職員録等
	消耗品費	24,709	事務用品等	50,000	事務用品等
	通信費	68,936	通信費（郵送料等）	150,000	通信費（郵送料等）
	振り込み手数料	440		2,000	
	印刷費	52,000	事務局印刷費（コピー）	80,000	事務局印刷費（コピー）
	小計	<b>149,485</b>		<b>287,000</b>	
事務局費	事務局活動費	1,320,000	11万円×12月	1,380,000	11万円×12月 通勤手当5,000円×12月
小計	<b>1,320,000</b>		<b>1,380,000</b>		
10年会費備蓄	420,000	5,000円×教育84名	500,000	5,000円×教育100名	
退職記念積立	70,000		70,000		
有朋会基金積立	2,000,000	有朋会基金積立（令和2年度より）	1,000,000	有朋会基金積立（令和2年度より）	
予備費	610,130	事務局員活動費・交通費	603,609		
合計	<b>5,717,078</b>		<b>7,335,609</b>		
令和4年度残高	1,235,599				

### 令和4年度学部との意見交換会

令和5年1月11日（水）18:00（菱の実会館）  
教育学部、芸術地域デザイン学部、有朋会、芸術地域デザイン学部  
同窓会から 計17名参加



両学部の就職状況や  
今後の学生支援の在  
り方などについて意  
見交換を行った。



### H22年～R4年までの会費納入者

令和5年3月31日現在

会費納入者数（人）		増減	備考
平成22年度	3,182	3,182	師範卒無料
平成23年度	3,248	66	
平成24年度	3,161	-87	
平成25年度	2,823	-338	
平成26年度	2,831	8	
平成27年度	3,028	197	
平成28年度	2,819	-209	
平成29年度	2,663	-156	
平成30年度	2,756	93	文教4年次卒業
令和元年度	3,010	254	130年記念誌発行
令和2年度	2,516	-494	会費2,000円
令和3年度	2,461	-55	会費2,000円
令和4年度	2,401	-60	会費2,000円

# 本部便り

◆新型コロナウイルス感染症の猛威に苦しめられた3年間でしたが、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類」に移行されました。まだまだ油断はできませんが、マスク着用も個人の判断となりました。「有朋会」の絆を深めるための様々な行事も感染対策を行いながら、対面で実施しつつあります。ぜひ皆様ご参加ください。

◆現在、有朋会会員は約1万6千余名です。その大半は、佐賀県内に在住しておられます。有朋会本部では、ひとりでも多くの会員の皆様に「有朋会」の活動報告や行事案内、記念誌などもお送りしたいと考えています。お知り合いの同窓の方で本部からの連絡が届いていない方がいらしたら、ぜひ本部までご連絡ください。

◆なお、平成17年5月7日の代議員会において、77歳以上の会員からも会費を徴収する規約改正がなされています。師範学校卒業の先輩は特別会員となり会費をいただきません。会報配布や行事案内などは、正会員と全く同じです。

## 追悼会

- 期日** 令和5年11月19日(日)  
**会場** 願正寺 佐賀市呉服元町6-5  
 TEL: 0952-23-4001  
**日程** ○役員打ち合わせ: 9:00~  
 ○受付: 9:30~  
 ○追悼会: 10:00~11:20

※明治24年有朋会員による「総集會」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑を建立。全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきました。

## 第11回佐賀大学ホームカミングデーの開催

- 期日** 令和5年10月28日(土)(予定)  
**場所** 佐賀大学本庄キャンパス  
**目的** 佐賀大学の卒業生に母校佐賀大学を訪問してもらい、母校の現状を知り、恩師・学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援をいただければ幸いです。  
**対象** 卒業年等にかかわらず、全ての同窓生と本学の名誉教授  
**内容** 大学の近況報告、講演、在校生によるアトラクション等  
 詳しくは、佐賀大学校友会のホームページ(URL: <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>)の「お知らせ」をご覧ください。

**申し込み・連絡先** 佐賀大学校友会事務局  
 E-Mail: [kouyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp](mailto:kouyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp)  
 TEL: 0952-28-8390

## 会費納入のお願い

※会費納入は、下記の要領をお願いします。

- 令和2年度から本部年会費は、2,000円です。
- 特別会員(師範学校卒業)の方は、会費免除です。

### 【1】佐賀県内の学校勤務の会員は?

本部年会費と支部費を学校単位で徴収し、支部事務局へ納入ください。  
 支部費は、それぞれの支部で違います。(支部からの連絡あり)

### 【2】佐賀県内の学校勤務以外の会員及び退職会員は?

別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。  
 支部費は、それぞれの支部で違います。(支部からの連絡あり)

### 【3】佐賀県外の会員は?

別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。

### 【4】卒業後6年経過の会員は?〈入学時10年会費納入者〉

卒業後6年経過の会員は、別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。  
 佐賀県内在住者は、上記【1】又は【2】又は【3】の方法で納入ください。

### 【5】別添振込用紙で納入される場合は?

- 「ゆうちょ銀行」や「郵便局ATM」で。  
 ・口座番号 0-1730-8-35826  
 ・加入者名 「有朋会」  
 ・振込取扱票は「赤」の用紙をお使いください。  
 ・できるだけ早期に納入ください。

有朋会本部年会費の値上げにも関わらず、多くの会員の皆様から会費納入をいただき誠にありがとうございました。今年度もご協力のほどよろしくお願い致します。

The image shows two forms used for membership fee payment. The left form is a '払込取扱票' (Payment Slip) with fields for account number (01730835826), amount (2000), and recipient name (佐賀大学 有朋会). The right form is a '振替払込請求書兼受領証' (Request for Payment and Receipt) with similar fields and a section for the payer's name and address.

有朋 第42号	発行日 令和5年7月1日(土) 発行者 有朋会会長 山田 直行 編集者 編集部 長 江島 きよ子 事務局 事務局 長 高松 京子	住所 〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1 佐賀大学菱の実会館 TEL 0952-23-1253 E-mail <a href="mailto:dousoukai@sadai.jp">dousoukai@sadai.jp</a> HP <a href="http://sadai.jp/alumni/">http://sadai.jp/alumni/</a>
------------	---	---